

特集

地域をつくる学び合い 地域における学校5日制

地域社会においては、人間関係が希薄になるなど、かつて地域が持っていた「地域の教育力」が低下するという課題を抱えていると言われています。完全学校週5日制の実施とともに、地域の中で子どもを育てていくことが期待されています。今回は「地域をつくる学び合い」の一つとして、今年度4月からスタートした完全学校週5日制に関連した地域活動を紹介します。

北区 地域寺子屋事業 ～桐ヶ丘寺子屋～

北区では、平成14年度から、地域ぐるみの子育てを実践することを目的に、完全学校週5日制対応事業として、地域寺子屋事業を実施しています。この事業は、児童館を会場に、区内4地区をモデルとして、子どもが地域で学べる場、くつろげる場として「地域の学校」をつくるものです。子どもの学ぶ意欲に応えるため、宿題や補習を区立学校で教えている非常勤講師の先生が対応し、また、「自由な学習の場」として、読書や読み聞かせなども予定しているそうです。運営は、地域住民で寺子屋運営委員会をつくり、行います。今後は、段階的に、この事業を区内全域に広げていく計画です。

モデル地区の一つである桐ヶ丘寺子屋は、桐ヶ丘児童館で開設されています。寺子屋が開設される毎週土曜日には、地域の子どもが40人ほど訪れるとのこと。

寺子屋で、子どもたちは学校の宿題をしたり、また、児童館に用意してあるドリルをしたりして、自分の好きな勉強をしています。また、上の学年の子どもが下の学年の子どもの勉強を見てあげるといったことも自然に行われていて、これは児童館の職員も予想をしていなかったことだと喜んでいました。また、児童館に隣接して特別養護老人ホームがあり、児童館に通ってくる子どもがホームでボランティアをするなどの交流が図られています。

寺子屋の感想を子どもたちに聞いてみると、「家では勉強をする気にならないけど、ここなら集中できる。」「自分の好きな勉強をすることができる。」などといった声があり、自分が興味を持っている勉強に、自分から取り組んでいるようでした。



運営委員会の様子



寺子屋の子どもたち

このように子どもにとって「地域でつくられた学校」となっている寺子屋ですが、この運営に携わる運営委員は、近隣の学校の元PTA、民生委員や児童館に通っている子どもの保護者などで構成されています。運営委員の方のお話では、「寺子屋に関わるようになって、地域で親と子どもの顔が一致するようになった。」とか「物騒な世の中だが、人を信じられない子どもに育ててほしくない。自分たちが育ったころのような環境を作りたいくて、寺子屋に関わっている。」といった声が聞かれました。寺子屋に関わる大人としては、運営委員の方だけでなく、子どもの保護者もいます。桐ヶ丘児童館の中井館長のお話では、「土曜日の寺子屋のことで、地域の方々が集まるようになり、平日もふらっと寄ってくれるようになった。」「今後、地域の方々とコミュニケーションを図れるような事業を考えていきたい。」とのことでした。

完全学校週5日制をきっかけに地域の人々が出会い、地域ぐるみの子育てに参加するといった形が作られつつあるようです。



中井館長



久能先生

杉並区では、平成14年度から、完全学校週5日制に対応する事業として、子どもがさまざまな体験をすることができる機会を提供するため、「土曜日学校」をスタートさせました。

その一つである区立天沼中学校では、土曜日の有効活用を目指して、学習機会の充実と体験活動を通して、将来の夢や希望を見つけられることを目的とし、土曜日学校を行っています。

天沼中学校の土曜日学校の企画は、基礎基本の学習を行う日と体験的学習を行う日とを隔週で行っています。

学習を行う日では、学校の通常の授業では補えないところを子どもそれぞれの力に応じて、学校の教員が作成したテキストを使いながら、大学生のボランティアと一緒に学んでいます。

体験的学習の日では、茶道、華道、書道を予定しており、さらには、環境、福祉、情報などに関することも学習することを計画しているとのこと。このような体験的学習を行うことによって、子どもの学習意欲の向上を目指しています。

土曜日学校は、学校を会場としています。学校は場所を提供し、運営は地域の方によって行われています。第1回目の土曜日学校として取材に伺った日は、茶道を行っており、1回30分くらいの時間で行われました。参加者に話を聞いてみると、「楽しかった。」とか「興味があったので参加した。」など、満足そうな様子でした。

天沼中学校の土曜日学校は、学校と地域、企業などをコーディネートし、総合的な学習の時間などで活躍されている生重さんというコーディネータの方の協力を得て、実施されています。コーディネータの役割としては、企画を考え、その企画を実りあるものとするため講師を選び、その講師の方との調整をするなどです。

生重さんに、やっていた良かったことを聞いて

杉並区 土曜日学校 ～杉並区立天沼中学校～

てみると、「子どもの喜ぶ様子が見られること、子どもが学校を楽しんでいるようになること。」など子どもの様子が励みになっているようです。また、今後は、「コーディネータを養成し、ノウハウを伝えたい。学校への地域の参画を図りたい。」とのことでした。今後は、スクール・アドバイス・ネットワークというNPOを設立する予定だそうです。

生重さんは以前、PTA会長を担われたこともあり、学校や子どもに対する想いをお持ちで、今回、ご紹介した土曜日学校の活動は生重さんの想いが地域において、生かされる場となっているようです。



茶道体験の風景

完全学校週5日制

子どもが個性を生かしながら豊かな自己実現を図ることができるよう、学校、家庭、地域が相互に連携しつつ、子どもに豊富な生活体験、自然体験、社会体験、文化・スポーツ活動など、さまざまな経験や活動する機会を増やし、自ら学び、自ら考える力などの「生きる力」を育むことを目的として実施されました。